

編集後記

理事会の60周年記念行事実施の決定を受け、約1年前の2008年8月に60年史編集委員会がスタートした。すでに50年史では創設以来の半世紀に渡る溶接協会活動の集約が成されており、60年史は50年史以降の10年間協会活動中心の記録をまとめるに留めるとの方針が決定され、各部会・委員会などに執筆の依頼を行った。それ以前との活動のつながりは、必要最小限に止める方針ではあったが、それでは過去の変遷が把握しにくいとの執筆者側（部会・委員会）の熱心な要望もあり、資格制度に纏わる記録は10年にこだわらずに資料データとして掲載することとなった。

すでに同じ編集方針の40年史及び50年史は電子化されており、それらを参考に執筆を進めたため、執筆の詳細なフォーマットの決定に煩わされることも少なく、執筆者と校閲者のご努力により、本年3月にはほぼ原型が出来上がった。タイムテーブルに近い進行ではあったが、やはり原稿が出そろってみると、編集上の細かな問題が浮上し、またCDによる配布というIT時代に沿った出版形態の採用により、最終的な完成は記念事業に間に合わせる慌ただしい作業となった。

ここに各執筆部会、委員会ならびに協会事務局の各位に深甚の謝意を表したい。本年史に記述された10年は、バブル経済崩壊後の失われた10年と呼ばれる長期低迷期から脱し、溶接が主力基盤技術となる重厚長大産業での緩やかではあるが記録的な長期プラス成長期を経て、アジア諸国での工業の興隆に伴う鉄鋼資源や素材の急騰から、リーマンショックと呼ばれる世界経済混乱期に突入したところまでのめまぐるしい経済情勢の変化の期間に当たる。

編集委員長の職責上すべての原稿に目を通してみると、それぞれの研究委員会や部会で活動には盛況や沈滞はあるものの、マクロ的な協会活動は意外にもこれらの激動する経済情勢が直接反映されているようにも見えない。産業毎にタイムラグは大きく異なるため当然かも知れないが、協会活動では、技術者や作業者認証、規格活動など、地道ではあるが溶接技術を支える根幹の活動が主力をなしているためかも知れない。ここにこれまでの協会活動の基盤となるものが存在しているのでは、というのが編集しての実感である。

(入江)